

対話型鑑賞

本当に役に立つの？

と

学びの可能性

【日時】

2022年

3月26日(土)

14:00～16:00

* 参加費無料 *

【会場】鳥取県立博物館2F講堂

【主催】鳥取県立博物館

【参加費】無料

【定員】100名程度(当日先着順、事前申込不要)

【その他】当日会場にて、問診票の記入をお願いしています。
マスク着用の上、ご来場ください。

【お問合せ】0857-26-8045 鳥取県立博物館美術振興課まで

対話型鑑賞とは、1980年代半ばにアメリカのニューヨーク近代美術館(MoMA)で開発されたアートの鑑賞法のひとつです。英語ではVTS(Visual Thinking Strategies)と呼ばれ、当初は子ども向けの鑑賞法として開発されました。以来、アートを通じて様々な力を育む教育カリキュラムとして学校や美術館・博物館で導入されているだけでなく、近年では企業研修や医療現場などで、大人の能力開発の方法としても広く取り入れられています。今回は、アートエディケーター、アートプランナーとしてご活躍されている三ツ木氏を講師にお迎えし、美術作品をよく見て、見つけたものや感じたことを対話しながら鑑賞を深めていく「対話型鑑賞」の仕組みとその魅力、そこで育まれる能力などについてお話を伺います。

令和3年度鳥取県立博物館企画展「コレクション・マリアージュ SOMPO美術館×鳥取県立博物館 東郷青児と前田寛治、ふたつの道」会場での対話型鑑賞の様子

【講師】



三ツ木紀英(みつきのりえ)

NPO法人 芸術資源開発機構 代表理事、アートエディケーター、アートプランナー

英国留学後、フリーやNPOの立場で、美術施設だけでなく、街なかや保育園、児童館、学校、高齢者施設等で展覧会やワークショップを企画制作。近年は、対話型鑑賞ファシリテーターを育成することで、社会に埋もれているアートの種を掘り起こし中。共著『これからのアートマネジメント ーソーシャル・シェアへの道』(2011)、『現在アートの見方 ー見ることが武器になる』(2014)など。平成24年より現在まで東京都美術館 とびらープロジェクト鑑賞実践講座講師。平成27～28年には、サントリーホールと港区による小学校アウトリーチ事業「Enjoy×Musicプロジェクト！」の企画協力、佐倉市立美術館「ミテ・ハナソウ」プロジェクトなど多くの美術館やホールからの依頼で研修や講演を実施している。

対話型鑑賞ファシリテーターの希望者登録を行っています！

令和7年春(令和6年度中)の美術館開館に向け、小学生が作品鑑賞を行う際の案内役となるファシリテーターをやってみてみたい方を募集しています。作品の前で、子どもたちの言葉に耳を傾け、対話をつくる特別な時間を、一緒に楽しんでみませんか？ 詳細は裏面をご覧ください。